

短編ニュース：中露信頼関係の指標、モスクワ航空ショーの中露共同開催
漢和防務評論 20190511(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

2019 年のモスクワ航空ショーについて、ロシア側が中露共同開催にできるかどうか打診中であるという。
ロシア軍事工業界は、航空ショー自体が経費がかかりすぎるので陸戦兵器展示会に含めて開催することを決定したとのこと。
それもこれも西側の対露制裁が原因ですが、中国がどう対応するかで中露の信頼関係の一端が分かることでしょう。
2018 年の珠海航空ショーにはロシアは戦闘機を 1 機も参加させませんでした。

KDR モスクワ短編ニュース：

モスクワ航空ショーの消息筋は次のように述べた。MAKS 2019（モスクワ航空ショー）を中国と共同開催する件について協議中である、と。双方の共同出資により、中国空軍の J-20、J-10C の飛行展示を要請し、中露空軍パイロットが相互に SU-30 シリーズ戦闘機を操縦する、という。上述の構想の詳細は、協議中である、と。

しかし別の説によると：ロシアは依然独自に開催し、中国空軍戦闘機は単に招待する形になる、という。

2017 年のモスクワ航空ショーの後、ロシア軍事工業界は、今後クビンカの ARMY FORUM 系列の展示会に集中することを決定した。航空ショーはその一部に含め、もはやモスクワ航空ショーは開催しない方向で研究した。モスクワ航空ショー側は、依然として継続して開催することを希望したが、経費を工面しなければならなくなった。

モスクワ航空ショーは、世界で最大の航空ショーの一つと言われ、ピーク時には米軍もフランス軍も戦闘機を派遣した。近年来、西側の制裁を受け、欧州の会社は、民用航空技術のみの展示を行った。中国は、以前に、2 回”八一飛行表演隊（アクロバット飛行チーム）”を参加させた。

西側の制裁が強まったことにより、ロシアは中国に接近する方向に進まざるを得なくなった。中国空軍にとって、J-20 を航空ショーに派遣できるかどうか？これは、両国関係の深さを表す重要な指標となる。2018 年の珠海航空ショーには、ロシア空軍は、1 機の戦闘機も参加させなかった。軍事航空協力の一般的原則から判断すると、最先進技術の J-20 を外国の航空ショーに参加させることができるとは考えにくい。J-20 は実戦部隊に装備されたばかりであり、現在、極めて少量しか生産されていない。もしモスクワ航空ショーに参加するようであれば、両国の信頼関係が大きく高まったことを意味する。

以上